

# 羽田七福稲荷神社巡り&羽田空港見学

日時:2026年1月10日(土) 天候:晴れ 12500歩 約8km

集合:京急羽田線糀谷駅 10時

コース:糀谷駅→東官守稲荷神社→妙法稲荷神社→重幸稲荷神社→高山稲荷神社→本羽田公園(ランチ)→  
佃煮大谷政吉商店直売所→大師橋旧橋跡・羽田の渡し碑→鷗稲荷神社→白魚稲荷神社→穴守稲荷神社→  
天空橋駅(モノレール移動)→羽田空港第3ターミナル→展望デッキ→ターミナル間無料連絡バス→第1ターミナル  
見学→地下1階京急線改札前にて解散(希望者はその後第2ターミナル見学へ)

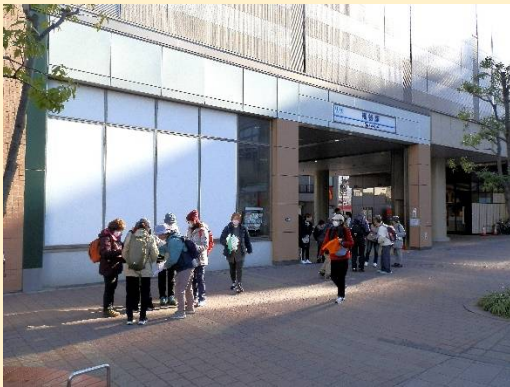
参加者:吉越(L) 岩元(SL) 亀田(SL)

勅使河原 平嶋 五十嵐し 平石 熊坂 高橋文 平山 熊島 齊藤優 渡辺ち 山内 井内 小島重 富士  
市村 桑原 桑名 澤 奥村 山田 井口 吉岡 内海 藤田 飯田 富矢 鹿島 柏木 篠 高橋吉 小島サ  
保坂 玉利 入江 高津佐 永由 飯倉 沼津 西川 簾屋 佐藤し 永井 白田 平方 石山 井上 渡辺杏  
三宅み 三宅祐 清野 / 一般:ユズキ 押領司 計55名

2026年幕開けの例会は、恒例の七福神巡りからスタート。今回は東京都大田区にある「羽田七福神稲荷巡り」です。七福神と言えば仲良く宝船に乗っている姿を思い浮かべますが、商売繁盛の恵比寿以外は出身地が外国で、大黒天・毘沙門天・弁財天がインド、布袋・寿老人・福祿寿は中国から来ています。

羽田空港の開港は1931年で、当初は「羽田飛行場」として開かれた小規模の飛行場だったが、戦後は復興と共に拡張され、1950年代には国際空港としての役割を担うようになった。空港の建設される前には、ここに「羽田水泳場」というプールがあり夏のレジャースポットとして人気があり、現滑走路の隣の南側には運動場があり地方競馬場もあった。1952年には連合国軍に接收されていたが日本政府に返還され、名称も「東京国際空港」に改め民間飛行場として再スタートした。羽田地区の歴史は古く、江戸時代のこの一帯は「羽田浦」と呼ばれ、漁業従事者が集まった「羽田獵師町」が出来ていた。

この日の午前中はまだそれほどでもなかったが、昼からは南の強風が吹き荒れまるで台風並み。空港の見学デッキに立つとつかまっていなくて吹き飛ばされそうで、まるで風神が怒り狂っているのかと思われるほど。55名という大軍団だったが何事もなく無事に巡ることが出来たのも七福神のご加護か？ まずはメデタシメデタシでした。 <フォトレポート 小島>



朝の糀谷駅前。今は高架になりました。駅前広場でストレッチ&吉越Lからコース説明と各班の紹介。





■東官守稲荷神社(身体安全)

当時この地の村人たちは半農半漁の生活をしていたので、海における仕事の安を祈る守護神として、村人たちの信仰を集めていた。大正5年の風水害で被害を受けたが、荻中神社再建の際に荻中神社の境内に移された。昭和20年の戦災で焼失したが、町民の努力で再建された。そのため稲荷社は荻中神社の片隅に鎮座している。



■妙法稲荷神社(招福厄除け)

享和元年の大洪水の被害から立ち直るため、京都伏見大社の分霊を賜り、大松の下に社殿を建立し鎮座したもの。この松の根元には白蛇が住み、神の使いと言われたことから蛇稲荷とも呼ばれて信仰を集めていた。大正12年の関東大震災で大松も社殿も消失したが、有志により八角堂が建立され、妙法稲荷と呼ばれ信仰を集めていた。



■重幸稲荷神社(開運長寿)

度々の洪水に悩まされた村人達は、多摩川の旧六郷土手の際に、田畑の守護と五穀豊穡を祈って社を建立した。社殿の前の道路は旧六郷土手で、現在の社の高さが旧堤防の高さであった。



ここから多摩川の土手沿いに歩くことに。この頃から南の風が強まり、寒くはないものの風で身体が持って行かれそう。



#### ■高山稲荷神社(学業成就)

社殿は名主の橋爪家の前にあったが、昭和4年の六郷土手改修工事の際に現在地に移転された。移転前の社が飛騨高山の大工のよって建築されたことから、高山稲荷と呼ばれるようになった。戦前の初午祭には、芝居小屋も開かれ賑わいをみせていた。 ※何故かこの写真がこれしかなく、仕方なしに同じようなものを載せることに・・・



昼食後はお約束の買い物タイム！ 創業130年の佃煮で知られる大谷政吉商店の工場直売所に立ち寄り。ここはクラブでも過去に皆さんを案内したことがある私もよく買いにくる馴染みの店です。一番人気は「若だきアサリ」、塩分控え目で各種料理にも使えて何かと便利な総菜で、パスタのボンゴレにも合うのでお勧めです。またニシンの昆布巻等もいけますよ。

本日もお買い上げ有難うございました。（←念のため申し上げますが、私はこの店の回し者ではありません！！）



再び多摩川土手上を歩きます。



かつてあった多摩川の渡しの碑。



旧大師橋の橋脚が残されている。



■ 鷗稲荷神社 (開運招福)

現存する石の鳥居には、弘化2年建立と刻まれていることから鎮座はそれ以前となる。その昔、猟師たちが祈願すると鷗が飛来し大漁であったことから鷗を大漁の兆しとして崇め、以後「鷗稲荷」と呼ばれるようになった。昭和20年の戦災で焼失したが町民により再建された。 ※神社周辺の旧羽田道には、レンガ造りの多摩川土手旧堤防跡が残されていた。



■ 玉川弁財天 (金運長寿)

江戸名所図絵に「羽田の南も洲の先」にあり、故に羽田弁財天と称せり。本尊は江ノ島本宮岩屋弁財天と合体にして、弘法大師の作と云えり。宝永8年4月この地に奉り云々」とある。社頭は、江戸新堀の小西久兵衛という酒問屋が造ったとされ、境内の一部に常夜灯があり、沖行く舟の目標であった。またこの社にまつわる様々な版面も残されている。元は羽田空港内にあったが、昭和20年9月連合軍の強制退去命令により現在地に移転した。この先の多摩川河口の「五十間鼻」には水難者を弔う水面に突き出した小さな社があり「五十間鼻無縁仏堂」と呼ばれ、川を行き来する舟の安全を見守っている。



### ■ 白魚稲荷神社(無病息災)

武蔵国風土記に“漁士白魚を初めて得し時は、まずこの社に供ふる。故にかく云へり”と社名の起源が記されている。多摩川の砂利採取が行われるようになった頃、この事業に従事する人たちの信仰を受け、社頭大いに盛んであった。昔この付近は茅葺屋根が多く、漁師町特有の建て込んだ家並みから、火事が起こらないよう祈願する人も多く、火伏の神様としても信仰がある。その為かこの社は大戦の戦火を免れた。



### ■ 穴守稲荷神社(家内安全・交通安全・商売繁盛・心願成就)

文化元年頃、鈴木新田開墾の際、沿岸の堤防がしばしば激浪のため大穴が生じ被害を受けた。そこで稲荷大神を祀りご加護を願った所、以後風浪の害もなく霊驗あらたかであった。昭和20年の終戦を似て、米軍の羽田空港拡張のため現在地に遷座した。終戦当時から数々の神秘的現象が起こった為、畏れられ取り壊さず活きた大鳥居として、今でも空港内に聳えている。空の旅をする人の中には、この社のお守りを授かっていく人も多いという。



天空橋を渡りモノレール天空橋駅へ。



モノレールなのに何故かホームは地下に。



ホームのプレートには可愛いイラストも。



一駅で羽田第3ターミナル駅。ここは地上駅です。



第3ターミナルは国際線専用。その為かターミナル内はあちこちに外国人向けの工夫が。ゴジラまでいた！





江戸情緒溢れるグルメ街。有名店も軒を並べる。



お江戸日本橋も木造で復元されている。



第3ターミナルの展望デッキ。風が強くて飛ばされそう。駐機スポットには中華系航空会社の機種が目立つ。



強風の中、デッキ上に並んでもらい全員集合。風のせいかな皆さんの顔はどこを向いてるのかでバラバラ。

## ■羽田空港(東京国際空港)について

羽田空港にはA・B・C・Dと4本の滑走路があり、その時の風向きにより管制官の指示で離発着する滑走路が決まります。成田と関空は4000m級の滑走路をお持ちますが、この羽田はC滑走路の3360mが最長で、他は3000mと2500mとなっています。この中でも沖合に建設されたD滑走路は、ターミナルからの距離が遠く、タキシング(飛行機の自力走行)に時間がかかり、急ぐ時にはイライラさせられます。地方空港では1800m級が殆どですが、これは離発着する機種が中距離用のB737やエンブラエルE190クラスなので十分対応出来るからです。しかし昨今の利用状況を考えると、地方空港とは言え外国機の利用も増えており延長も必要とされています。

またここには第1・第2・第3と3棟のターミナルがあり、第3が国際線専用で、第1は主にJAL(日本航空)、第2はANA(全日空)が使用しています。空港へのアクセスは京急羽田線と東京ノールが担っていますが、JR線が乗り入れる計画もあり、国際空港としての利便性が更に高まることでしょう。



無料連絡バスで第1ターミナルへ移動。羽田空港神社に手を合わせる。デッキ上は強風が収まらず。



※本日のコースはここで終了。吉越はじめ各担当の皆さんには大人数にも拘わらず大変お疲れ様でした。七福神を巡ったことで、今年一年ご利益が得られる事でしょう。寒さで中々外に出る機会が減ると思いますが、せめて月一くらいはウォーキングに参加して、体力維持に努めたいものです。

<ひとこと>

強風のせいにはしたくはないですが、今回の写真はどれも今一で、お恥ずかしい限りのレポートとなりました。まあこれも高齢故のことと暖かい目で見てください(笑)

END